

口絵 1 無残な姿をさらす大和デパート

※写真は本報告書に掲載（Web 非公開）

口絵 1 無残な姿をさらす大和デパート

（撮影：ジェームズ原谷, 提供：朝日新聞社）

「・・・予告は何もなかった。突然、床が私たちを押し上げ、壁と天井の巨大な塊りが私たちにぶつかりはじめた。・・・床に這いつくばりながら出口や窓によるよると向った。・・・私たちは体を芝生の上に投げ出したが、震動があまりにも激しかったため、上下にバウンドし、まるでポップコーンのように飛び跳ねていた。通りの向こうで、7階建ての大和デパートがぐらぐらと揺れながら崩壊し始めた。内部が崩壊するにしたがって、裂けるような、割れるような、つぶれるような音が聞こえてきた。」（谷口仁士, 1998, 「よみがえる福井震災」より抜粋）

この被害はライフ誌（米）の表紙に紹介された。この建物は市民にとって街のシンボリックな存在であったが、地震後は福井地震の強烈さを示すシンボルとして永く語り継がれている。



口絵2 地震発生翌朝の福井市街

(谷口仁士, 1998, 「よみがえる福井震災」(写真集)より転載) (提供: 国土地理院)

地震発生から17時間後の様子。焦土と化した市街の中心に残っているのは鉄筋コンクリートの建物だけである。しかし、その多くの建物の内部も火災の被害を受けている。写真左上には崩壊した大和デパートが写っている。写真中の番号に対応する建造物は、本文第4章、第3節の写真4—8参照。



口絵 3 福井県庁南側の被害の様子

(谷口仁士, 1998, 「よみがえる福井震災」(写真集)より転載) (提供: 国土地理院)

県庁および市役所の南側は焦土と化している。写真中の番号に対応する建造物は、本文第4章、第3節の写真4-9を参照。



口絵4 完全に焦土と化した県庁西側の市街地

(谷口仁士, 1998, 「よみがえる福井震災」(写真集)より転載) (提供: 国土地理院)

燃えくすぶっている建物のほかは、完全に燃え尽きている。地震発生17時間後の変わり果てた中心市街地。



口絵5 焦土の中から立ち上がる復興への足音

(提供：読売新聞社, 1946. 6. 30 撮影)

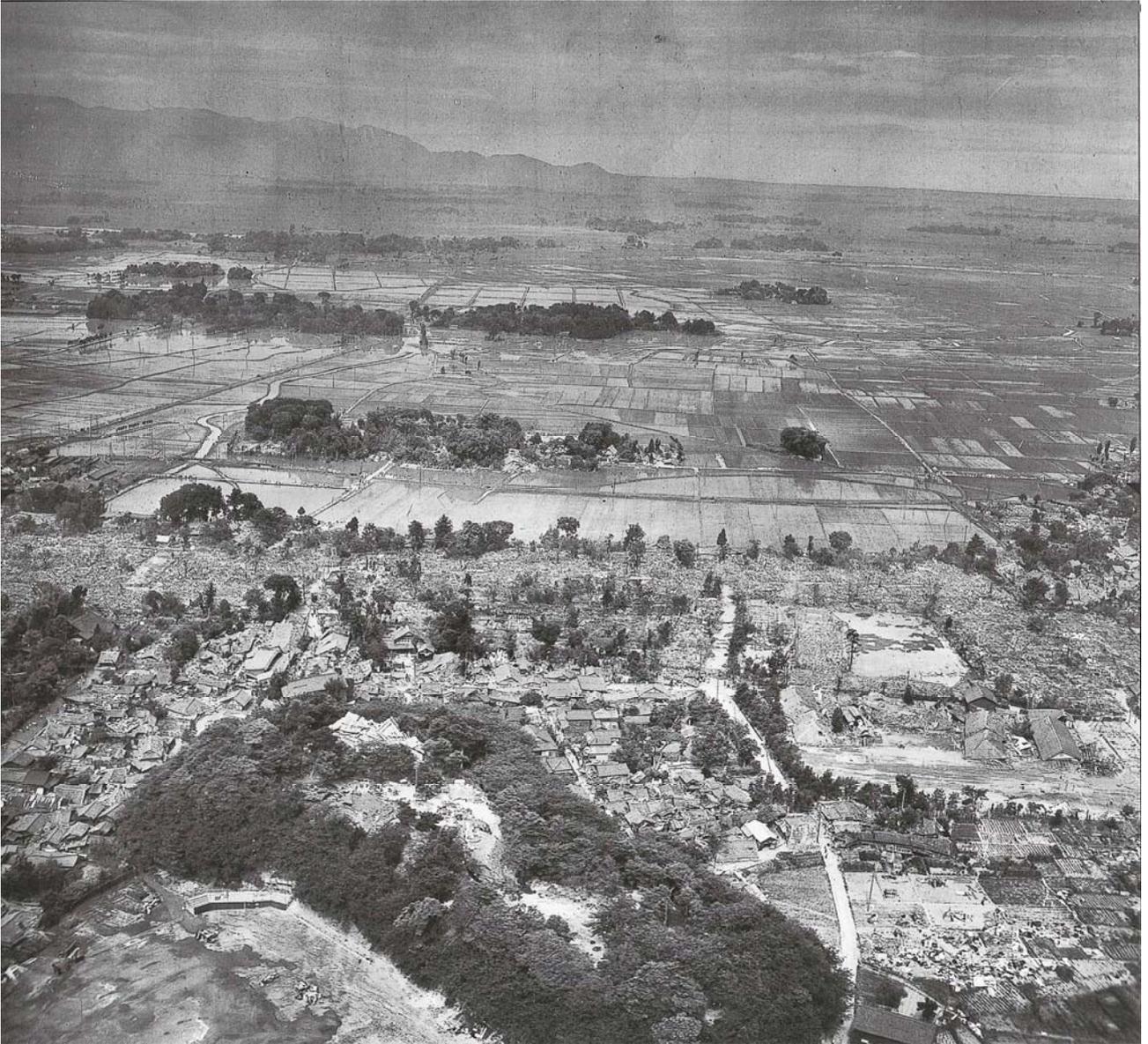
地震発生から一週間後の米極東軍司令部(当時の繊維会館)前の様子である。焦土化した被災地からバラックが建ち、復興へ向けた被災者の力強い足音が聞こえそうである。



口絵 6 震源地とされる丸岡町の被害

(谷口仁士, 1998, 「よみがえる福井震災」(写真集)より転載) (提供: 国土地理院)

中央に永平寺線・丸岡駅口が写っている。ほとんどの家屋が倒壊している。また、延焼している煙も写っている。



口絵7 崩壊した丸岡城

(谷口仁士, 1998, 「よみがえる福井震災」(写真集)より転載) (提供: 国土地理院)

写真下側の馬蹄形をした森の左端に崩壊した丸岡城が写っている。お城周辺の家屋の多くは崩壊しているが火災は発生していないようである。



口絵 8 燃え広がる炎

(提供：中日新聞社, 1948. 6. 28 撮影)
懸命に救助をしている人をあざ笑うかのように出火した炎は、拡大していた。



口絵 9 必死になって負傷者の救出をしている GHQ の活動

(提供：中日新聞社, 撮影日不明)
緊迫感が今でも伝わってきそうな写真である。



口絵 10 ご婦人方による炊き出しの風景

(提供：読売新聞社, 1948. 6. 29 撮影)
今で言う“ボランティア”活動。“もんぺ”をはいたお母さんとその左で一生懸命おにぎりを握っている娘さんとの会話が聞こえてきそうな写真です。



口絵 11 壊滅した町を通り過ぎていく人々の思いは？

(提供:読売新聞社, 1948. 7. 1 撮影)
石川県大聖寺町の様子である。鮮明に写し出された被害の様子は、福井市から遠く離れた所でも起こっている。

口絵 12 重いリュックを背負った少女の足音が聞こえそう。
※写真は本報告書に掲載 (Web 非公開)

口絵 12 重いリュックを背負った少女の足音が聞こえそう。

(提供:朝日新聞社, 撮影:ジェームズ原谷, 撮影日は不明)
子供たちを見ている少女の顔が……。

口絵 13 人形を抱いた痛々しい少女
※写真は本報告書に掲載 (Web 非公開)

口絵 13 人形を抱いた痛々しい少女

(提供:朝日新聞社, 撮影:ジェームズ原谷, 撮影日は不明)
豆腐委託加工所で両親を待っているようである。

口絵 14 復興の槌音

※写真は本報告書に掲載 (Web 非公開)

口絵 14 復興の槌音

(提供：朝日新聞社, 撮影：ジェームズ原谷, 撮影日は不明)

片付けられた瓦礫、整理された残骸そして建設されたバラック小屋。

口絵 15 路面電車の受難

※写真は本報告書に掲載 (Web 非公開)

口絵 15 路面電車の受難

(提供：朝日新聞社, 撮影：ジェームズ原谷, 撮影日は不明)

震度 6 以上の揺れに曝されたにもかかわらず、脱線しなかった。その後の火災で被災。本当に火災は恐ろしい。

口絵 16 工場の被害

※写真は本報告書に掲載 (Web 非公開)

口絵 16 工場の被害

(提供：朝日新聞社, 撮影：ジェームズ原谷, 撮影日は不明)

写真の奥に写っているのは足羽山であろう。その手前には被災を免れた家屋が立っている。この様子は、多分、鯖江方向から写したものであろう。

口絵 17 後片付けに参加している男衆

※写真は本報告書に掲載（Web 非公開）

口絵 17 後片付けに参加している男衆

（提供：朝日新聞社, 撮影：ジェームズ原谷, 撮影日は不明）

編笠とスコップ、その前にはゲートルを巻いたような男達。

口絵 18 黒焦げになった県織協ビルと力強い復興

※写真は本報告書に掲載（Web 非公開）

口絵 18 黒焦げになった県織協ビルと力強い復興

（提供：朝日新聞社, 撮影：ジェームズ原谷, 撮影日は不明）

この写真に写っている人々の力強さの根源はどこにあるのだろうか？

口絵 19 野戦病院

※写真は本報告書に掲載（Web 非公開）

口絵 19 野戦病院

（提供：朝日新聞社, 撮影：ジェームズ原谷, 撮影日は不明）

阪神・淡路大震災で活躍した自衛隊の皆さんの活動が思い出されます。

口絵 20 壊滅状態になった九頭竜川鉄橋

※写真は本報告書に掲載（Web 非公開）

口絵 20 壊滅状態になった九頭竜川鉄橋

（提供：朝日新聞社，撮影：ジェームズ原谷，撮影日は不明）

九頭竜川に架かっていた橋のほとんどが壊滅した。

口絵 21 復活した渡し舟

※写真は本報告書に掲載（Web 非公開）

口絵 21 復活した渡し舟

（提供：朝日新聞社，撮影：ジェームズ原谷，撮影日は不明）

渡し舟で行き交う被災者の皆さん。

口絵 22 自転車も乗っている

※写真は本報告書に掲載（Web 非公開）

口絵 22 自転車も乗っている

（提供：朝日新聞社，撮影：ジェームズ原谷，撮影日は不明）

前の写真の拡大である。警察官らしい人も乗っている。